



ア エ ファ
AEFA 通信

認定NPO法人 **アジア教育友好協会**

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

<http://blog.canpan.info/aeifa/>

第6回AEFAフォーラム開催

～ 12月26日 地方フォーラム開催県の先生方と総括フォーラムを実施 ～

お陰様でAEFAフォーラムも今年で第6回を迎えることができました。2011年4月に東京都武蔵村山市第八小・第十小の校長先生をベトナム・ラオスに派遣。7月にはベトナムのパートナーNGO代表トランさんを招聘、10月にはラオスのパートナーNGOよりノンさん・ニャイさんを招聘。各地方の学校で出前授業を行うとともに、地方フォーラムを開催しました。これまでの実績が認められ、東京都武蔵村山市教育委員会ならびに三重県津市教育委員会の後援を頂いての実施となりました。また、福島県では県教育委員会の後援を頂き、アジアからのメッセージが寄せ書きされた「復興こいのぼりの授業」も実施いたしました。一連の出前授業・地方フォーラムの総括として、2011年12月26日に東京で総括フォーラムを開催。各地域の校長先生方より取り組みを通して得られたことを発表して頂きました。『国際理解の意義とは』とのディスカッションもふまえ、ここに、AEFAの思いをまとめました。

将来の日本、世界を作っていく子どもたちが
アジアとの交流を通じ、いのちの尊さ、生き抜く大切さを学び
人のために役立つ人となるための教育に貢献します。

早稲田大学大学院教職研究科 教授 菅野静二先生

今後、国民みんなが目指していくものは何かと考えた時、「いのち」「一人ひとりが持っているいのちの役割」なんだろうと思います。自己有用感の中で自分のいのちの役割を果たしていける社会を教育の中で作っていかないとなりません。「人間がなぜ他の動物たちのいのちを自分たちのいのちに変えさせていただいているのか。自分の命の役割を本気で見つけ出していくこと」こそ教育の大きな狙いなのではないかと思います。

武蔵村山市立第十小学校校長 榊 尚信先生

武蔵村山市立第八小学校校長 牧 一彦先生

「ものがないことと、貧しいことはイコールではない」ということを子どもたちに伝えたかった。ワンコイン・スクールプロジェクトは家族の生活を考え直すきっかけになります。親子のかかわり合い、対話が増え、子どもが家族の一員としての自覚を持つことができる。要は親子でお金や物事の価値観を話し合うコミュニケーションづくりとなっています。

三重県津市立南が丘小学校 校長 森田正美先生

三重県津市立高野尾小学校 校長 杉本一久先生

三重県津市 元教育長 田中 彌先生

生徒達は「家族が一番大事だ」と言い切る同世代のラオスの生徒の姿を知り、また子どもたちと真剣に向き合っているラオスNGOスタッフの生き方に触れ、普段授業に集中することが難しい生徒も感動し、真剣に耳を傾けていました。（一身田中学の授業実践に於いて）

自分たちの支援がラオスでどのように使われているかがよくわかり、子どもたちも一層やる気に。「自分たちの頑張りをラオスのお友だちに送るんだ」「ラオスのお友だちの役に立っているんだ」という達成感につながっています。（高野尾小学校の取り組みに於いて）

福島県伊達市立富野小学校 校長 宍戸仙助先生

被災地で、福島県で、大切な「絆」が放射能汚染により、薄れて、減って、切れて、消えていく毎日だからこそ、教育現場でこそ、その「絆」を深め、増やし、新たに作る事が「今」必要なのだと思います。その「絆」は「共感力」「こころの知能指数」を高めることによって作られるでしょう。この共感力の育成も、国際理解教育で培うことができる資質です。

福井県坂井市立三国北小学校 校長 青木信益先生

福井県坂井市立元平章小学校 元校長 松本盛博先生

子どもたちの自然発生的な発想に寄りそい、無理なくできることで息の長い交流をしていきたい。

開発途上国の子どもたちの様子を見て、日本の恵まれた環境を知り、愛国心や感謝の心を学ぶことができる。今の自分の環境が当たり前という考え方が多い子どもたちに、その考えの背景となっている歴史的な物を学ばせることができる一つの教育方略が国際交流活動です。

宮城県仙台市立広瀬小学校 前校長 菊地修治先生

満ち足りて受身の生活を送る日本の子どもたちにとり、「自分が働きかけないと生活ができない」ラオスの子どもたちの現実を知ること、しかも、それを笑顔いっぱいやりぬいていることにカルチャーショック。「国際理解教育」がなくても表面上教育は成り立ちます。しかし、自分づくり・人間づくりのためには、アジアの国々から学ぶことがたくさんあるのでは。



ラオス・パートナーNGOよりノンさん・ニヤイさん招聘 ～ 東京都武蔵村山市・三重県津市において地方フォーラム実施 ～

10月24日、ラオス・パートナーNGO (VFI/OVC)よりノンさん・ニヤイさんが来日。福島県→東京都→三重県と地方フォーラム/出前授業をしながら、たくさんの日本の子どもたちに出会いました。その様子をご紹介します。

ブアラペ・チュンタボンさん(ノンさん)

OVC代表、医師。医師として病人を治すことも大事だが、病気になるように予防することが、より大切・との信念から、保健衛生・教育・青少年育成・農業技術指導等、村人の自立のための様々な支援を献身的に行う。



チャンタラ・ブッタボンさん(ニヤイさん)

ロシアの大学に留学して会計学を修める。銀行勤めの予定が、海外NGOの活動に体験参加したことから、この道こそが自分の天命と知る。あたたかな人柄で村人に寄り添って活動し、OVCスタッフにとってもお母さんの存在。

◆◆ノンさん、ニヤイさんからのメッセージ◆◆

ノン: 私たちが学校をつくっているラオスの山の中の村の子どもたちに、今、大きな問題が起こっています。子どもが誘拐され、町へ連れていかれ、そしてだまされて安い給料で働かされていることです。学校がないために、学校に行けない。3年生までしか勉強を続けることができなくて、読み書きもできない。きちんと教育を受けられていないために、だまされてしまうのです。コーヒーやゴムの畑で、水汲みや重い荷物を運んだり、簡単そうだけど、実はとても大変な仕事しかできません。働かなくていいところで、働かされる。だから、私たちはその子どもたちのためにも学校を作りたいと思っています。

ニヤイ: ラオスの子どもにとって、勉強とは、読み書きや算数だけではありません。生きるために必要なことを学ぶことです。それは、自分で考え、自分で自分の未来を作れるようになることです。みなさんは、こんなに立派な学校で、素晴らしい校長先生がいて、そしてたくさんの先生方に囲まれて毎日勉強することができて、とても幸せですね。どうか一生懸命勉強してください。自分のためだけでなく、ほかの誰かのために役立つように。みなさんが勉強したことが役に立って、周りの人の笑顔が増えたら、とてもうれしいと思いませんか？

ノン: 「みなさんの中で携帯やゲーム、コンピュータを持っている人はいますか？」

「では、あなたが悲しくて泣きたい時、さびしい時、あなたのその気持ちをわかってくれる携帯やゲームを持っている人はいますか？」

「では、誰があなたの気持ちをわかってくれるでしょうか。」

「そうです。機械には、心がありません。あなたの気持ちがわかるのは、あなたの家族や友達、先生たちなのです。日本はとても技術のすすんだハイテクノロジーの国ですが、どうか機械だけに頼るのではなく、みなさんの周りに居る人から、たくさんのお話を学んでください。そして周りの人とのふれあいを大切にして過ごして下さいね。」



AEFA武蔵村山フォーラム開催

10月28日（金）武蔵村山第五中区（二小、八小、十小）の5-6年生、合計500人近くが参加し、武蔵村山フォーラム「ラオスの子どもたちに学ぶ」が開催されました。ワンコイン・スクールプロジェクトの活動内容や成果の発表など、子どもたちが中心となったフォーラムとなりました。会場には保護者の方も集まり、熱気あふれる空間となりました。



★子どもたちの感想★

「お金の貴重さ、ありがたみを感じました。正直学校に行きたくない日も何度もあったけど、行きたいのにいけない子どもが沢山いる事を知って、学校はたくさんの楽しい事があるし、色々なことを教えてくださるのだからしっかり行こうと思いました。ラオスの子どもたちにはずかしくないように学校で色々なことを学んでこれからに生かそうと思います。」

「ラオスはとても貧しい国だと思います。でもラオスの人たちの心は全然貧しくなくて、明るくて優しく思いやりのあるとってもいい人たちだと思います。」

***** 国際教育理解研究会@武蔵村山*****

ワンコイン・スクールプロジェクトに取り組む先生方や保護者の方々と交えて研究会を実施。家庭での取り組みについて話をきいたり貴重な時間となりました。

「ワンコイン・スクールプロジェクトを通じて、1年生は小さなことでも“これをやったよ。あれをやったよ”と報告しにきてくれます。それが自分のためだけでなく、ラオスの子どもたちのために

なっているということは、子どもたちの教育を考えると非常に素晴らしいことだと思っています」「娘には父親が稼いだきたお金の重みを感じてほしいと常々思っており、今まで一度もこのプロジェクトにお金をだしたことはありませんでした。しかし今日、ワンコイン（500円）の大切さを娘に伝えていくのは母である私の役割であると認識しました。今後寄付することができれば娘の心も成長すると思います。これから親子で取り組んでいきたいです」



***** AEFA FORUM IN TSU *****

10月31日、津市内の先生方と国際理解研究会を行い、ご担当の先生から交流事例や授業実践発表が行われました。

「社会科の教師として普段から生徒に世界の話をしていいますが、自分が何回語っても今日のノンさん・ニヤイさんとの出会いにはかなわないと実感しました。今回子どもたちがいろんな価値観に出会えるきっかけを頂けたことを嬉しく思います」「子どもたちがいまこの年齢の時に2人のような“強い志をもった人に出会うこと”が何よりの良い経験になりました」



ノンさん・ニヤイさんによるラオス出前授業 ～ 福島県・東京都・三重県の小中学校訪問 ～

◆10/25 福島県伊達市立富野小学校（全校児童対象）



「ラオスと日本それぞれの生活の生き方の違いからお互いに多くを学ぶことができる。勉強することも大事だけど、もっと大事なのは人を助ける人間になることです」というノンさんからのメッセージを、真剣に聞いていました。地域の伝統芸能の披露もあり、子どもたちは生き生きと交流を楽しんでいました。

◆10/25 福島県伊達市立小国小学校（1,2,4,5年生対象）

校長先生より「大切なことは相手のことをどれだけ考え・思うか」というお話があり、子どもたちもラオスの話に真剣に耳を傾けていました。ニヤイさんからは震災・原発に対するお見舞いとともに、日本の環境を生かして一生懸命学んでほしいとメッセージが寄せられました。



◆10/26 福島県飯館村立飯館中学校（1年生対象）



初めてラオスについて聞く1年生。これまでの飯館村とラオス・ドンニヤイ村のかかわりや、ラオスの中学生たちの様子、アジアの子どもたちからの応援小メッセージを紹介。

「ラオスのために何かしたい」と感想を書いてくれた生徒もあり、「心の交流」につながっています。

◆10/26 福島県飯館村立草野/飯樋/白石小学校（5年生対象）

ラオスについて調べ学習が進められており、次々出される質問に答えながらの授業となりました。「どんな勉強をしているの?」「学校で流行っていることは?」等、ラオスの子どもたちの様子をはじめ、文字・言葉など沢山のことを教わり、ラオスの方との交流を楽しんでいました。



◆10/26 福島県矢祭町立東館小学校（4年生対象）



「せっかく日本に来てくれたラオスの2人に、日本の遊びを紹介したい!」と4年生が準備。遊びを体験しながら、笑顔あふれる素敵な交流の時間となりました。また、昨年ラオスとの交流を行っていた5年生とも感動の対面となりました。

◆10/27 東京都武蔵村山市立第八小学校（4年生対象）

なぜラオスに学校が必要か、ラオスの子どもたちの生活などを紹介。日本とは全然違うラオスの食生活や子どもたちの暮らし、地雷の残る生活環境などについて、驚きをもって話を聞いていました。



◆10/28 東京都武蔵村山市立第十小学校（4年生対象）



ワンコイン・スクールプロジェクトの普及に力を尽くしてくれている「ラオス親善大使」の任命式を実施。ラオスをととても身近に感じてくれている子どもたち。授業では2人の話を聞きもらすまいと真剣なまなざしでメモをとり一生懸命聞いていました。授業後も挨拶や質問に、積極的にふれあい、交流を楽しんでいました。

◆10/27 東京都武蔵村山市立第二小学校（6年生対象）

お昼休みの短い時間だったので、簡単にラオスについて説明。初めて触れるラオスの食文化や生活に早速興味をもち、質問をしてくれる子もいました。



◆10/31 三重県津市立一身田中学校（2年6組対象）



ラオスと日本の中学生の「将来の夢」と「一番大切なもの」を比較しながらの授業に、2人がゲストティーチャーとして参加。普段授業に集中できないという生徒も、2人のメッセージをととても真剣に頷きながら聞いてくれたのが印象的でした。「もう1時間授業をしたかった」との声も頂きました!

◆10/31 三重県津市立高野尾小学校（5,6年生対象）

交流校のラオス・ピアラー校について紹介。昨年の高野尾小学校からの支援がピアラーでどのように役に立っているかを報告しました。その後「会社をつくろう」の授業を見学。ラオスについて自分たちで調べたことを、資料を使ってプレゼンする児童らの真剣なまなざしと熱気に、ノンさんニヤイさんも「まるで大学生のよう!」と、しきりに感心していました。



◆11/1 三重県津市立一身田小学校（6年生対象）



初めて触れるラオス。竹製の生活雑貨をクイズ形式で紹介しながら、子どもたちの暮らしや食べ物等について紹介。この出会いが世界を広げるきっかけとなればと願っています。

◆11/1 三重県津市立南が丘小学校（5年生対象）

交流校ラオス・ナトゥム小の紹介と、子どもたちの質問に答えながらの授業となりました。「ニヤイさんの夢はなんですか?」「きちんとした学校があり、教える先生がいて、ラオスの子どもたちみんなが学校に通えるようになることです」。ラオスの子どものために献身的に働くニヤイさんの姿に、何かを感じているようでした。



◆ ラオスで開校式が行われました ◆

★フォーサイ中学校

株式会社ディアーズブレイン様ご支援のフォーサイ中学校開校式が、11/15 晴れ渡る空の下行われました。内定者の皆様を中心となり、交流会の準備を重ねました。一緒にソーラン節を踊ったり、しっぽ取りゲームや玉入れを楽しんだり。お別れのときには涙と笑顔が入り混じり、忘れられない一日となりました。



★ラオガム小学校

中西重敏様、東野光男様、岡村一様、横関一伸様、田村恵様ご支援のラオガム小学校の開校式が、11/17に開催されました。「よく学び、よく遊べ」「今日より明日、今月より来月、今年より来年と少しずつ成長していくように目標をもって、そして将来人のために役立つ人間を目指して下さい」というメッセージ。竹とんぼや折り紙、風船、綱引きなどの交流も、一緒にたっぷり楽しみました。



★ノントウム小学校

これまでに井戸、教材、ボランティア先生の給与と、継続して学校を育てて下さっている株式会社ブロードウェイ様。創立10周年を記念してノントウム小学校に追加校舎をご支援頂きました。これで1-5年全員が村の学校で学ぶことができます。子ども・村人中心の記念となる一日を・・とのご趣旨から、皆でランチを食べ、綱引きを楽しみ、笑顔あふれる一日となりました。



皆様、あたたかいご支援、本当にありがとうございました！

新たなご支援ありがとうございます！

ベトナム ルオン・テー・ヴィン小学校

坂東眞理子様ご支援によりホイアン市に建設されます。建設後の日越の子どもたちの交流が楽しみです。

ベトナム ルホンフォン小ダクルン分校建設

早川悟史様代表のアースバンク倶楽部様ご支援で3教室の校舎を建設。子どもたちの学習環境が改善されます。

ベトナム ゴックトゥ小ダクトン分校建設

剣持様ご支援により2008年日本財団様建設の校舎の隣に新たに2教室を建設。学習に集中できるようになります

ラオス バンプアイ中学校建設

ダイリキ株式会社様ご支援により5.5教室が建設されます。子どもたちが中等教育を受ける機会が提供されます

ラオス パチュドン幼稚園建設

セカンド・オピニオン株式会社様ご支援で幼稚園を建設。より幼い時期からラオス語を学ぶ機会が増えます！

ラオス ドンニャイ小中学校井戸建設

池田竜男様ご支援により井戸が建設されます。安心な水が手に入るにより衛生状態の改善が期待されます！

富士ゼロックス株式会社ご有志の皆様のご支援により「ミニ黒板」をラオス山岳地域の学校に届けました。「ミニ黒板はずっと使えるので嬉しい！」と子どもたちも先生も大喜びでした！



出前授業

◆11/16 長野県長野市立大岡小学校

学校で育てている大根を販売。昨年・今年とラオス・トンコー小を支援してくれています。「私達が一生懸命育てた大根のお金が役立っている事はとても嬉しいです」



◆11/17 千葉県野田市立北部小学校

「北小万博」にラオスパビリオンを出展。パチンコを使った「森のスーパーマーケットゲーム」を通して、ラオスの子どもの生活を学びました！



◆11/18 東京都港区立芝小学校

国際交流クラブのみなさんが中心となってベトナム・フートゥーC小学校と交流。ベトナムのハス茶を味わったり、羽根蹴り「ダーカウ」にも挑戦しました。



◆11/21 東京都文京区立青柳小学校

6年生にベトナムのこと、交流校のマクディンティ小学校の様子などをお話しました。とても興味を持って聞いてくれました。



◆11/30 埼玉県さいたま市立植水小学校

アジアの人々の生活文化を調べ、日本の生活や文化から紹介すべきことを考え、今後ベトナムへの交流作品を作ることになっています。



◆12/8 岡山県倉敷市立倉敷西小学校

ベトナムや交流校のダクトカン小学校について紹介。日本とベトナム、違うところも同じところもたくさん見つけたようです。



◆12/9 岡山県倉敷市立玉島南小学校

ベトナムについて紹介。4,5,6年生から沢山質問がありました。「自分たちの食べるものも十分ではないのに、日本を助けてくれたのはすごい」との感想も。



◆12/9 岡山県倉敷市立水島中学校

交流校の子どもや村の人たちが東日本大震災の際に寄せてくれた支援について紹介。ベトナムの子どもたちのためにイラストを描き手作りした、素敵な風を贈呈してくれました。



◆12/9 岡山県倉敷市立柏島小学校

ラオスの子どもの生活を紹介。とても積極的で質問も感想もたくさん。「ラオスと日本はそこまで遠い国ではないのに、違う生活をしていて驚きました」



◆12/16 東京都国立市立第七小学校

ベトナムの生活や交流校のタンホアA小学校の様子を紹介。自分たちでもベトナムについていろいろと調べており、1月の公開授業日に発表するそうです。



◆12/20 相模原市立広田小学校

ラオス・チャンヌア小からのビデオメッセージや、学校建設に参加する様子に、「ラオスの子は自分勝手にしないで協力し合って生きている」との感想が次々に。広田小の友だちと、心と心がつながった実感がありました。